

## 第3章

### 都市の将来像

1. 都市づくりのテーマ
2. 将来都市像
3. 将来都市構造

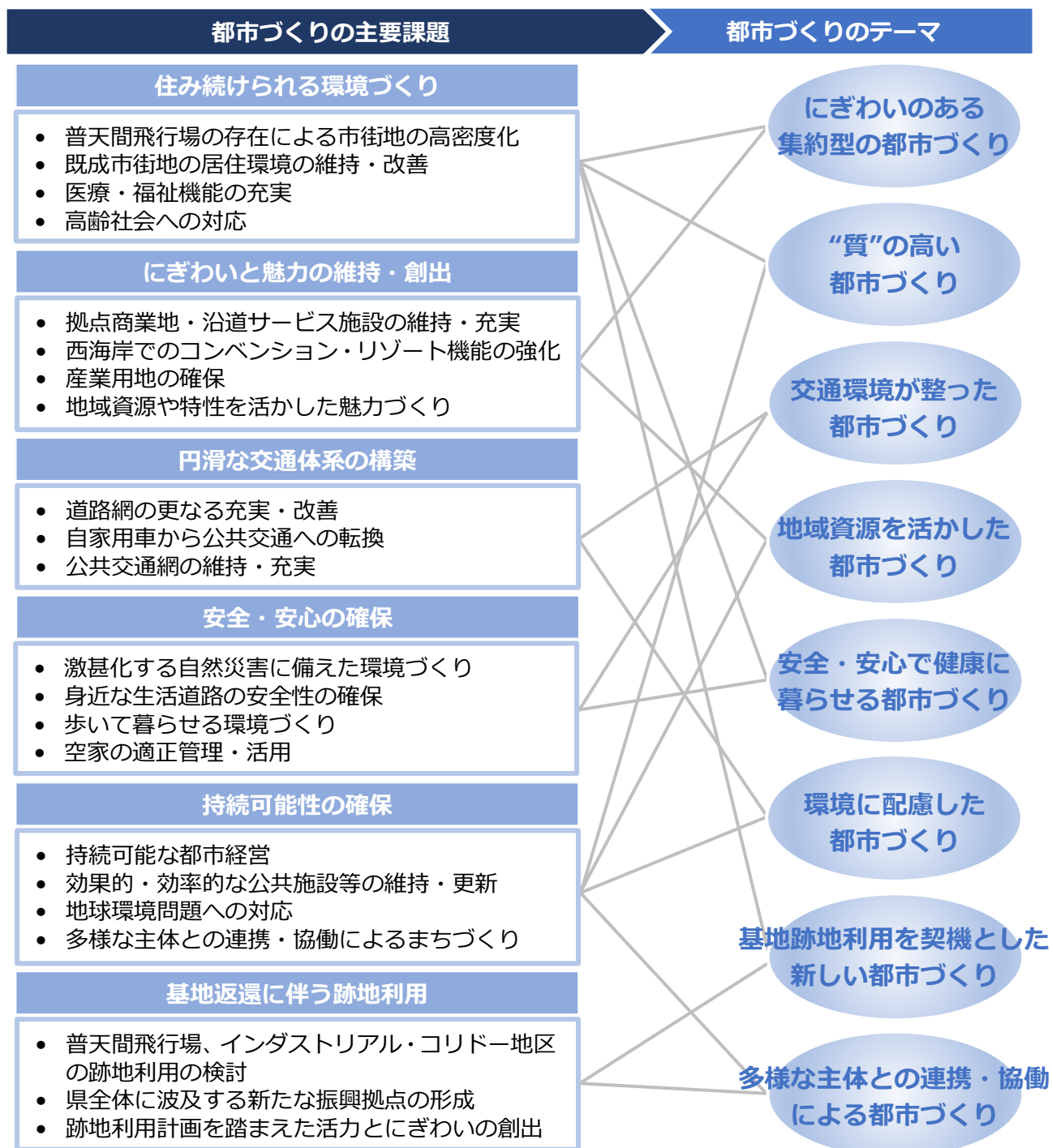


## 第3章 都市の将来像

本章では、都市づくりの主要課題を踏まえた都市づくりのテーマを整理するとともに、本計画の目標として、テーマを包括する将来都市像とその実現に向けた将来都市構造を定めます。

### 1 都市づくりのテーマ

本市が抱える都市づくりの主要課題や上位計画での位置づけを踏まえ、これからの都市づくりを進めていくうえで共有すべきテーマを以下のように設定します。



## 1 にぎわいのある集約型の都市づくり

- 沖縄の中核を担う都市として将来にわたり成長・発展していけるように、本市の核となる市街地を中心としたコンパクトな都市づくりを推進し、持続可能な都市を支える人や産業、都市機能の維持・誘導を図りながら、歩いて楽しむことができるにぎわいのある都市を目指します。

## 2 “質”の高い都市づくり

- 市民が将来にわたり住み続けることができるように、また新たな居住地として選ばれる都市となるために、既存ストックの適正管理と活用を図りながら、身近な範囲で多様なサービスを楽しむことができる、良好な居住環境が整った“質”の高い都市を目指します。

## 3 交通環境が整った都市づくり

- 子どもから高齢者、障がいを持つ方まで、誰もが多様な手段で安全・快適に都市内や都市間を移動することができるように、道路環境の整備・改善や公共交通網の充実を図りながら、自動車に頼りすぎない歩いて暮らせる都市を目指します。

## 4 地域資源を活かした都市づくり

- 市民生活を支える地域コミュニティをはじめ、本市特有の自然環境や歴史・文化、学園都市としての強みなど、都市の魅力を高める地域資源を保全・育成・活用した個性豊かな都市を目指します。

## 5 安全・安心で健康に暮らせる都市づくり

- 地震や台風など激甚化する自然災害に備えた環境整備により、安全・安心な都市づくりに取り組むとともに、高齢社会や多文化共生社会などを見据え、誰もが利用しやすい市街地環境の形成を図りながら健康に暮らせる都市を目指します。

## 6 環境に配慮した都市づくり

- 自然環境の適正な保全・活用をはじめ、効果的・効率的な移動に向けた交通施策、再生可能エネルギーや多様な先進技術の導入によるスマートシティの形成など、多面的な観点から環境に配慮した都市を目指します。

## 7 基地跡地利用を契機とした新しい都市づくり

- 普天間飛行場をはじめとする基地返還に伴う跡地利用を契機として、本市のみならず県全体に波及する活力創出に向けて、新たな拠点や交通網の整備を見据えた新しい都市づくりを目指します。

## 8 多様な主体との連携・協働による都市づくり

- 国や県などの関係機関との連携強化やまちづくりに係る人材育成を図りながら、市民や市内事業者、大学、NPO など、多様な主体とのパートナーシップによる都市づくりを目指します。

第四次宜野湾市総合計画では、将来都市像を『人がつながる 未来へつなげる ねたてのまち 宜野湾 ～活気にあふれ、豊かで住みよいまちを目指して～』と設定しています。本計画では、都市づくりのテーマを包括した概ね 20 年先の将来都市像を次のように設定します。

## 未来を育む ねたてのまち 宜野湾

～魅力ある暮らしとにぎわいあふれる 交流共生都市～

### 「未来を育む」とは…

- 未来の宜野湾市を担う子どもたちや健康長寿の高齢者たちが、これからも安全・安心・快適に宜野湾市で暮らしていくことができるように、質の高い居住環境を形成するとともに、普天間飛行場などの跡地利用を契機とした未来志向の新しい都市づくりを目指します。

### 「ねたてのまち」とは…

- 沖縄の中核を担う“ねたて<sup>※</sup>のまち”として、普天間飛行場の返還に伴う新たな振興拠点の創出など、更なる成長・発展に向けた取組みを進めながら、人・モノ・情報が集まり魅力とにぎわいがあふれる集約型の都市づくりを目指します。

### 「交流共生都市」とは…

- 子どもから高齢者まで多様な世代間の交流、市民・事業者・大学・行政などの多様な主体との連携・協働、地域コミュニティの強化や地域住民と観光客との交流など、人と人とのつながりが保たれた交流による都市づくりを目指します。
- 豊かな自然環境と市街地環境との共生、独自の歴史・文化や学園都市としての強みを活かした魅力の創出、居住地と商業・業務地、公園・緑地が調和した土地利用など、都市を構成する各要素が共生した都市づくりを目指します。
- 高齢社会や多文化共生社会などを見据えた多様性と包摂性のある持続可能な都市づくりを目指します。

※ 「ねたて」とは古謡「おもろそうし」に表された言葉で、「物事の根元」または「共同体の中心」を意味します。(第四次宜野湾市総合計画基本構想より)

## (1) 将来都市構造の基本的な考え方

### 基地返還を見据えた段階的な将来都市構造の設定

- 本市は、市の中央部に普天間飛行場が位置しており、そのことが市街地や交通ネットワークの分断、居住地や公園の不足など、様々な都市的課題の要因となっています。一方で、普天間飛行場は米軍再編協議等において返還が合意されており、返還後は本市のみならず中南部都市圏の新たな振興拠点として、大規模な跡地利用構想が検討されています。
- 本計画は概ね 20 年後を見据えたまちづくりの方針を示すものですが、基地返還を前提とした将来都市構造だけでは、現状の市街地環境が抱える課題への対応が不十分となることから、将来都市構造を基地返還の進捗に合わせた 2 段階に分けて設定します。
- 今後 10 年間を見据えた目標として、普天間飛行場が存在する現状の都市形態の中で、生活環境の質の向上・改善に資する『**将来都市構造（短期・中期目標）**』を設定します。
- 本計画の最終的な目標として、普天間飛行場の返還に伴う跡地利用も含めた概ね 20 年後の『**将来都市構造（長期目標）**』を設定します。



普天間飛行場

### 将来都市構造の構成要素




- 本市の将来都市構造は、「拠点」、「軸」、「ゾーン」の 3 つの要素によって構成します。
- 「拠点」は、市民や来訪者の都市活動の中心であり、多くの都市機能や人々が集まる場となります。それぞれの機能・役割に応じた求心性を有する都市の核を「拠点」として位置づけます。
- 「軸」は、本市と周辺都市、市内の各拠点間を繋ぎ、人やモノの円滑な移動や活発な交流を確保・促進するための動線となります。また、商業・業務や教育・研究などの都市機能相互の連携により、機能の強化・拡充を図るための一体的な繋がりでもあります。本市の主要な道路や、今後導入が想定される新たな交通システムによって形成される動線、拠点間の機能連携を「軸」として位置づけます。
- 「ゾーン」は、同じ特性・役割を担う、連続した土地利用の広がりを表します。一体的かつ面的に誘導すべき土地利用を「ゾーン」として位置づけます。



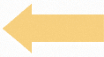




## (2) 今後 10 年間を見据えた『将来都市構造（短期・中期目標）』

### [将来都市構造（短期・中期目標）の展開方向]

#### 拠点機能の維持・充実と 拠点連携・循環型都市構造の強化

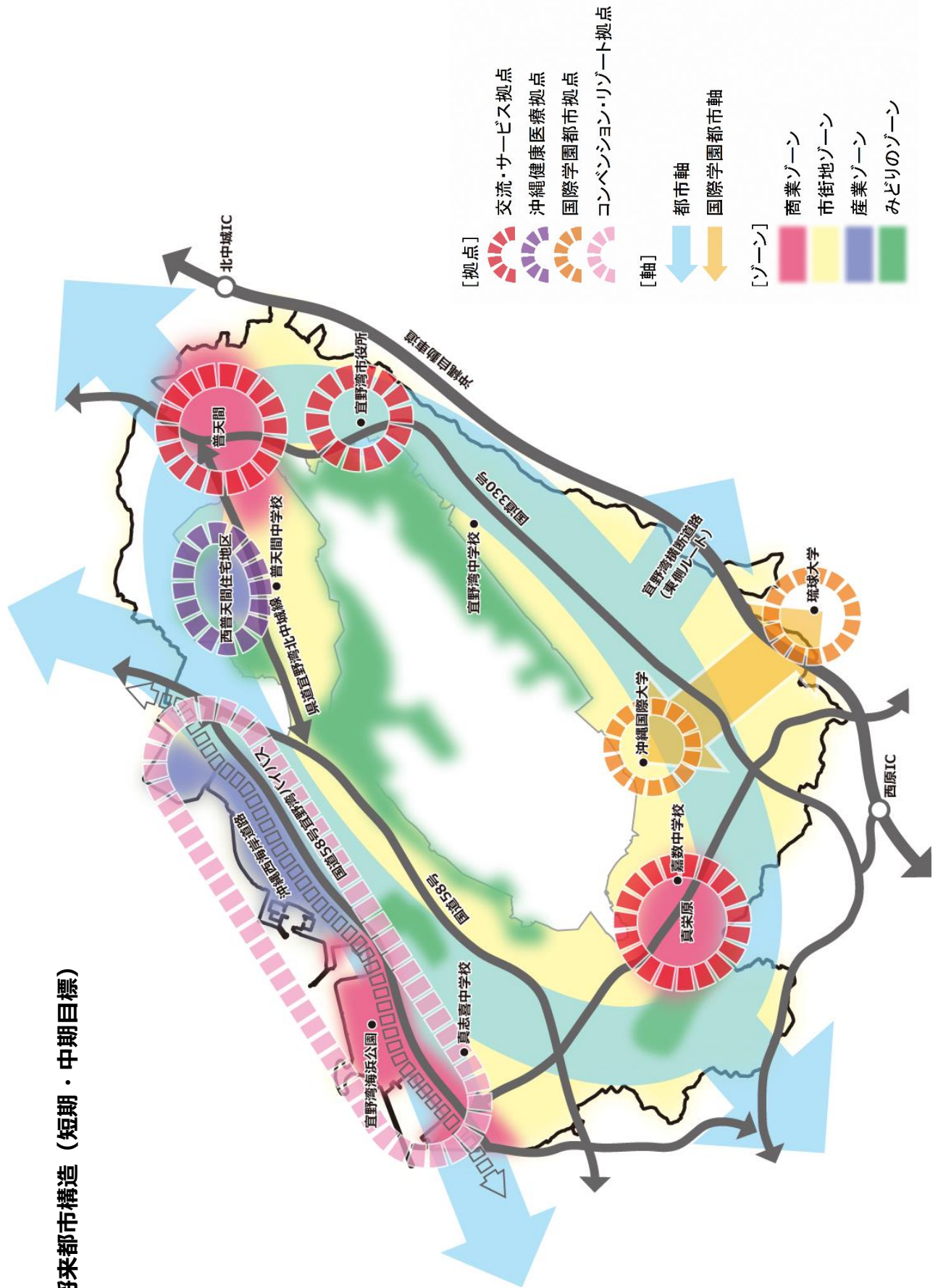
- 今後 10 年間を見据えた将来都市構造（短期・中期目標）として、普天間飛行場を環状に取り囲む市街地形状を前提とした“循環型都市構造の強化”に取り組みます。
- 市中央部に位置する普天間飛行場の返還及び跡地利用が進むまでは、普天間飛行場を取り囲む形で形成されている市街地の利便性や安全性の向上に向けて、土地利用の適正化や道路網の更なる充実・改善を図り、コンパクトな都市づくりを推進します。
- 普天間飛行場の周辺に残されている斜面緑地など、本市の骨格となる自然環境については、引き続き、適正な保全・活用を図ります。
- 本市の中心的な商業地となる普天間地区、市民の日常生活利便性と交流を支える真栄原地区、行政機能の中心となる市役所周辺、国際学園都市の核となる沖縄国際大学や琉球大学など、既存の拠点機能の維持・充実を図ります。また、西普天間住宅地区の沖縄健康医療拠点や、西海岸エリアのコンベンション・リゾート拠点など、本市の新たな活力と魅力の創出に資する拠点形成を推進します。
- これらの拠点は、普天間飛行場の周辺に環状で形成されている国道 58 号や国道 330 号、沖縄西海岸道路などの既存道路網の充実による連携強化を図ります。
- 市民や観光客が、都市間や拠点間を円滑に移動することができるよう、本市と周辺都市を繋ぐ道路網や公共交通網の維持・充実を図るとともに、将来的な跡地利用に伴う新たな道路網や拠点等との連携を見据えた都市軸の強化を図ります。

区分		位置づけ
拠点	<b>交流・サービス拠点</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 普天間地区、真栄原地区及び市役所周辺の複合的な商業・業務地。歴史・文化を活かしたにぎわいの創出や商業・交流・行政・サービス機能の維持・強化により、市民の暮らしと移動を支える中心的な生活拠点。</li> </ul>
	<b>沖縄健康医療拠点</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 西普天間住宅地区跡地における新市街地。高度医療及び研究・教育機能の誘導・充実により、本市のみならず沖縄全体の健康を支える広域的な医療拠点。琉球大学医学部及び琉球大学病院の移転により、国際学園都市拠点としての機能も有する。</li> <li>● 医療のみならず、交流・文化・居住など、多様な機能を有する本市の新たな中心拠点としての役割を担う。</li> </ul>
	<b>国際学園都市拠点</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 沖縄国際大学及び隣接する琉球大学周辺の市街地。文化・学術の拠点的機能が集積した本市における情報発信や若者文化の創出を担うとともに、産学官の連携・交流の促進による周辺地域の新たな活力創造を図る拠点。</li> </ul>

区分		位置づけ
拠点	<b>コンベンション・リゾート拠点</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>西海岸エリア一帯の商業及び産業系市街地。既存都市機能の充実・活用によりコンベンション機能・都市型リゾート機能の強化を図り、世界水準の都市型オーシャンフロント・リゾートを創出する拠点。</li> </ul>
	<b>都市軸</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道 58 号、国道 330 号、沖縄西海岸道路など、人やモノの円滑な移動を支える本市の骨格となる交通軸。普天間飛行場の周辺を環状に走る道路網により、各拠点を循環型に連絡し市内や周辺都市を繋ぐネットワーク軸。</li> </ul>
軸	<b>国際学園都市軸</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄国際大学及び琉球大学相互の機能連携や交流を促進するネットワーク軸。</li> </ul>
	<b>商業ゾーン</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>普天間地区、真栄原地区及び西海岸エリアの商業・業務地。普天間地区は本市の中心的な商業地、真栄原地区は市民の日常的な生活利便性と交流を支える商業地、西海岸エリアは主に来訪者の観光・交流を支える商業地として、商業・業務系土地利用を誘導する市街地。</li> </ul>
ゾーン	<b>市街地ゾーン</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>居住地と身近な商業・サービス施設を含む複合的な土地利用が広がる市街地。公園・緑地については、適正な管理・保全・活用を図り、潤いある居住環境を形成する。</li> </ul>
	<b>産業ゾーン</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨海部の既存工業地及び西普天間住宅地区。西海岸エリアでは西海岸一帯の発展に寄与する土地利用を図り、西普天間住宅地区では沖縄健康医療拠点での医療・福祉機能等の誘導・強化を図るゾーン。</li> <li>西普天間住宅地区は、琉球大学医学部及び琉球大学病院の移転により、国際学園都市拠点としての機能も有する。</li> </ul>
	<b>みどりのゾーン</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>基地周辺の緑地や大山地区の田芋畑など、本市の骨格となるみどりの適正な管理・保全・活用を図り、潤いある市街地環境の形成に寄与するゾーン。</li> </ul>



■ 将来都市構造（短期・中期目標）















### (3) 概ね 20 年後を見据えた『将来都市構造（長期目標）』

#### [将来都市構造（長期目標）の展開方向]

## 駐留軍用地跡地利用による 沖縄の新たな広域振興拠点と都市軸の創出

- 概ね 20 年後を見据えた将来都市構造（長期目標）として、普天間飛行場跡地やインダストリアル・コリドー地区跡地など、駐留軍用地の返還に伴う跡地利用を推進し、“沖縄の新たな広域振興拠点と都市軸の創出”を目指します。
- 普天間飛行場跡地では、「緑の中のまちづくり」をテーマに、跡地内における新たな交通網との関係性に配慮しながら、普天間公園（仮称）をはじめ、沖縄振興の新たな拠点にふさわしい、広域的な利用を見据えた都市機能の誘導・集積を図ります。インダストリアル・コリドー地区跡地では、沖縄健康医療拠点との連携を図りながら、新たな交流の創出による持続的な地域振興や本市の経済発展に寄与する都市機能の誘導を図ります。
- 既成市街地では、基地跡地における新たな土地利用と連携した環境改善を推進し、適正な密度を確保したゆとりある市街地形成を図ります。
- 普天間飛行場跡地を通過する中部縦貫道路や宜野湾横断道路、沖縄鉄軌道による新たな都市軸を形成し、市街地の分断解消に資する効率的な交通体系を実現するとともに、普天間飛行場跡地に配置される新たな広域振興拠点と周辺の既存拠点との連携強化を図ります。
- 沖縄国際大学、琉球大学、西普天間住宅地区における琉球大学医学部を繋ぐネットワークを形成し、大学相互の連携・交流を促進するとともに、普天間飛行場跡地を活用した新たな学術・研究拠点の創出を目指します。
- 普天間飛行場跡地及びインダストリアル・コリドー地区跡地の利用にあたっては、それぞれの跡地利用計画との整合を前提とします。

区分		位置づけ
拠点	<b>広域振興拠点</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 普天間公園（仮称）と融合した「緑の中のまちづくり」をテーマに、中南部都市圏の核となる基幹産業や広域的な商業・業務、公共・公益機能など、県全体の振興に資する高次都市機能が集積した新たな中心拠点。</li> </ul>
	<b>交流・サービス拠点</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 都市軸沿いに形成される普天間地区、真栄原地区、伊佐地区及び市役所周辺の複合的な商業・業務地。</li> <li>● 普天間地区、真栄原地区及び市役所周辺においては、歴史・文化を活かしたにぎわいの創出や商業・交流・行政・サービス機能の維持・強化により、市民の暮らしを支える中心的生活拠点を形成する。</li> <li>● 伊佐地区においては、商業・業務機能や交通結節機能の導入について検討し、立地特性を活かした拠点を形成する。</li> <li>● 普天間飛行場の跡地利用に伴い、拠点内における公共・公益機能の再編を検討。</li> </ul>

区分		位置づけ
拠点	<b>沖縄健康医療拠点</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>西普天間住宅地区跡地における新市街地。高度医療及び研究・教育機能の誘導・充実により、本市のみならず沖縄全体の健康を支える広域的な医療拠点。琉球大学医学部及び琉球大学病院の移転により、国際学園都市拠点としての機能も有する。</li> <li>医療のみならず、交流・文化・居住など、多様な機能を有する本市の中心となる拠点の一つ。</li> </ul>
	<b>国際学園都市拠点</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄国際大学及び隣接する琉球大学周辺の市街地。文化・学術の拠点的機能が集積した本市における情報発信や若者文化の創出を担うとともに、産学官の連携・交流の促進による周辺地域の新たな活力創造を図る拠点。</li> </ul>
	<b>コンベンション・リゾート拠点</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>西海岸エリア一帯の商業及び産業系市街地。既存都市機能の充実・活用によりコンベンション機能・都市型リゾート機能の強化を図り、世界水準の都市型オーシャンフロント・リゾートを創出する拠点。</li> <li>広域振興拠点との役割分担・連携を図る。</li> </ul>
	<b>普天間公園(仮称)</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>普天間飛行場跡地を活用した先導的な緑の拠点及び平和希求のシンボルとなる広域的な大規模公園。周辺の都市的土地利用と融合した「緑の中のまちづくり」を展開するみどりの拠点。</li> </ul>
軸	<b>都市軸</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道 58 号、国道 330 号などの既存交通網や、普天間飛行場跡地を活用した中部縦貫道路などの新たな道路網や鉄軌道の整備により、人やモノの円滑な移動を支える、本市の骨格となる交通軸。環状道路とそれを横断する東西軸・南北軸により、市内や周辺都市を円滑に繋ぐネットワーク軸。</li> </ul>
	<b>国際学園都市軸</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄国際大学、琉球大学及び西普天間住宅地区の琉球大学医学部を繋ぎ、大学相互の連携・交流を促進するとともに、普天間飛行場跡地を活用し、国際学園都市の新たな学術・研究拠点の創出を図るネットワーク軸。</li> <li>普天間飛行場跡地等を通過する新たな道路や公共交通網の整備・拡充により、拠点間の円滑な移動を支える動線。</li> </ul>
ゾーン	<b>商業ゾーン</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>普天間地区、真栄原地区及び西海岸エリアの既存商業・業務地と、都市軸沿いに形成される新たな商業・業務地。都市の魅力と活力を創出し、市民や来訪者の利便性を支える商業・業務系土地利用を誘導する市街地。</li> </ul>
	<b>市街地ゾーン</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>居住地と身近な商業・サービス施設を含む複合的な土地利用が広がる市街地。公園・緑地については、適正な管理・保全・活用を図り、潤いある居住環境を形成する。</li> <li>普天間飛行場跡地では、跡地利用計画と整合を図りながら、ゆとりある居住地や生活利便性の向上に資する土地利用を誘導する。</li> <li>インダストリアル・コリドー地区跡地では、西普天間住宅地区との近接性を活かした複合的な土地利用の誘導を検討する。</li> </ul>
	<b>産業ゾーン</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨海部の既存工業地及び西普天間住宅地区、普天間飛行場跡地の都市軸沿いの新たな産業用地。西海岸エリアでは西海岸一帯の発展に寄与する土地利用を図り、西普天間住宅地区では沖縄健康医療拠点での医療・福祉機能の誘導・強化を図る。普天間飛行場跡地では沖縄振興の新たな拠点にふさわしい、広域的な利用を見据えた都市機能の誘導・集積を図る。西普天間住宅地区は、国際学園都市拠点の機能も有する。</li> </ul>
	<b>みどりのゾーン</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>普天間公園(仮称)や基地跡地周辺の緑地・農地など、本市の骨格となるみどりの適正な管理・保全・活用を図り、潤いある市街地環境の形成に寄与するゾーン。</li> </ul>

## ■ 将来都市構造（長期目標）

※ 中部縦貫道路、宜野湾横断道路、鉄軌道等の構想路線は、現段階で想定される概ねのルートであり、確定したものではありません。

